

特定非営利活動法人 Azuma-re

# 事業報告書

期間 2011' 4/1～2012' 3/31

---

NPO・コミュニティのサポート

特定非営利活動法人 Azuma-re

## 年間事業のまとめ

平成23年3月11日に起こった東日本大震災により、当法人の活動は災害支援活動の中間支援を中心とした活動内容となった。

栗原市は震度7を記録したが、津波被害がない分、沿岸部に比べ軽傷で済んだ。被災地沿岸部に比較的近い位置にある栗原市は、沿岸部を支援するための拠点として、全国・全世界からのNPO、NGOなどが滞在した。当法人もNPOの中間支援組織として、さまざまな団体と協力し活動を共におこなった1年であった。

また、NPOの啓蒙・推進に関しては、今年度から栗原市が宮城県から申請業務を譲渡請け負いになると共に、栗原市市民活動支援センターも認知度上昇と利用者増加となり、また、皮肉にも東日本大震災により「NPO」という言葉も広く市民にひろまり、「NPO」が広く周知された1年であった。その上においてNPO・市民活動の中間支援の重要性、NPO・市民活動の存在自体の重要性を確認した1年であった。

## 事業に関する事項

### 1. 東日本大震災支援事業

- ① 東日本大震災支援ネットワークくりはら（平成23年3月15日～平成24年3月31日）  
主催：NPO法人Azuma-re

栗原市内に設置された南三陸町からの避難所8か所にうち、規模の大きい2か所に、情報掲示板を設置し、ボランティアのマッチング・コーディネートを行った。

市内の避難所は、栗原市と社会福祉協議会とが管理運営を行っていた。

NPO・市民活動団体等のボランティアは、ほとんど介入していなかった状況であった。

「何か支援したい」という思いをもった個人・団体が多数いたが、どの様にすればよいかかわからず動けない団体もあり、相談を受ける事も多かった。

そこで「掲示板」というツールを活用し、定期的に避難所に出入りし、避難所のニーズや情報収集・提案などをおこない、さまざまなボランティア活動とのマッチングコーディネートを行った。

また、廃校になった高校の体育館を県から借用し、全国からあつまった支援物資をボランティアスタッフと共に、集積・整理し、市内の避難所で生活をされている被災者の方々や沿岸部の方々へ配布をおこなった。

また、被災地沿岸部で支援活動を行っているNPO等を、栗原市内のNPO等のネットワークを活用した後方支援（人的支援、物的支援、情報発信等）をおこなった。

#### コーディネート、マッチングした活動・団体

国境なき医師団、海と山の絆栗原応援団、オアシス、ネパリバザーロ、築館生活学校、金売り吉次祭り実行委員会、NPO法人フラワーセラピー研究会、くりはらツアーリズムネットワーク、NPO法人クリーン瀬峰、RQ市民災害救済センター、あったかお茶わんプロジェクト、仙台博報堂等。お料理教室、ロザフィ作り等。

## 支援物資の集積配布

毎週末、集積所（旧築館高校体育館）を、市内で避難生活している沿岸部の被災者の方々へ開放し、段ボールにして約400箱近い物資をお配りした。  
それと並行し、段ボール箱100箱を被災地沿岸部へ配布した。

## ② お茶わんプロジェクト（平成23年5月11日～平成23年10月13日）

主催：神戸のNPO法人ひまわりの夢企画、NPO法人Azuma-re

協力：栗原市社会福祉協議会

全国より寄付された未使用の食器類を、南三陸町を主とした仮設住宅へ無料配布した。避難所から仮設住宅へ移り住む際、食器類などを新たに購入しなければならないため家で眠っている食器類を全国から無償提供して頂き役立ててもらう支援活動。

## 支援物資の集積管理

旧築館高校の体育館を県より借用し、支援物資の集積・整理・管理を週6日／4カ月間、5～15名／日のボランティアスタッフとで行った。

●ボランティアスタッフのべ数680名

●未使用食器寄付数5,116箱

## 支援物資の配布

南三陸町を主とした沿岸部被災地の避難所・仮設住宅133ヶ所に5,116箱配布。

平成23年

5/11	七ヶ浜町ボランティアセンター「無料食器市」	100箱
5/18	石巻市双葉町地区	15箱
5/19	東松島市大曲地区	10箱
5/23	栗原市内避難所（南三陸）延年閣	41箱
5/25	仙台市若林体育館（荒浜地区）	92箱
5/26	南三陸町馬場中山生活センター	25箱
5/28	石巻市開北小学校	30箱
	石巻市立図書館	12箱
5/29	石巻市萩浜小学校	29箱
5/31	気仙沼市小泉中学校	100箱
	〃 「オイカワデニム」	28箱
	南三陸伊里前小学校	11箱
6/01	大崎市鳴子仙庄館	55箱
6/02	気仙沼避難所「津谷川小学校」	50箱
6/03	石巻市渡波公民館	10箱
	〃 みなと荘	9箱
6/04	石巻市中里小学校「無料食器市」	120箱
	〃 ニッコリサンパーク石巻	66箱
6/05	〃 双葉町地区	115箱
6/06	気仙沼大谷仮設住宅	186箱
6/07	石巻市青葉中学校	240箱
6/07	南三陸町「食通“さとみ”」	30箱
6/08	南三陸町歌津中学校「無料食器市」	120箱
	気仙沼市「浜セン」	33箱
	気仙沼市避難所「オイカワデニム」	45箱
6/09	石巻市 〃 大須小学校	28箱
6/11	南三陸歌津（有）カネサコ三浦商店	5箱

6/17	女川町「海泉閣」	60箱
6/21	南三陸町災害対策本部	5箱
6/22	石巻市相川子育て支援センター	55箱
	〃 中央公民館	35箱
6/23	仙台港背後地6号公園仮設	60箱
6/24	南三陸町仮設平成の森「無料食器市」	215箱
6/25	東松島市大曲地区	100箱
	石巻市仮設万石浦団地「無料食器市」	60箱
6/26	気仙沼市仮設 津谷小学校住宅	25箱
	〃 仮設 津谷高岡住宅	15箱
6/27	南三陸町伊里前小学校	4箱
	石巻市河北センター「ビックバン」	100箱
6/28	山形市「ディーコレクティブ」	55箱
	栗原市避難所（南三陸）花山石楠花センター	3箱
	〃 （ 〃 ） 栗駒みちのく伝創館	5箱
	〃 （ 〃 ） 伊豆沼ウェットランド	15箱
7/01	栗原市「岩ヶ崎の館」	12箱
	〃 「ボランティアグループ福寿草」	10箱
7/05	南三陸町神割崎キャンプ場仮設	10箱
7/07	〃 石浜集会所	12箱
	〃 入谷中学仮設住宅	20箱
	〃 入谷小学校仮設	15箱
7/08	〃 三浦さん宅避難所	7箱
	〃 泊崎荘避難所	30箱
	〃 泊崎生活センター	60箱
7/09	〃 清観荘	5箱
	〃 志津川自然の家仮設	20箱
	〃 水戸辺地区仮設	20箱
7/10	〃 志津川中学仮設	40箱
	〃 志津川高校仮設	5箱
	登米市南方イオン跡地南三陸町仮設	35箱
7/11	南三陸町林地区仮設	8箱
	〃 大久保地区仮設	7箱
	〃 葦の浜農村公園仮設	15箱
7/13	〃 平磯地区仮設	15箱
	〃 志津川小学校仮設	35箱
7/14	〃 吉野沢地区仮設	17箱
	〃 馬場地区仮設	23箱
	〃 戸倉地区仮設	38箱
7/16	石巻市向陽町仮設&蛇田中央公園仮設	85箱
7/17	登米市南方イオン跡地南三陸仮設	90箱
7/18	南三陸町志津川高校仮設	
	〃 志津川小学校仮設	
	登米市津山南三陸町仮設	3箇所トータル80箱
7/23-24		
	栗原市若柳地区・金成地区	220箱
7/25	栗原市志波姫デイサービスはる	10箱
7/26	気仙沼市波路上「民宿「崎野屋」」	5箱
	陸前高田市米崎小学校仮設	50箱
	大船渡市上平仮設	15箱
7/27	仙台市太白区あすと長町仮設	40箱
7/28	南三陸町旧荒砥小避難所	20箱
7/29	〃 志津川高校避難所	15箱
	〃 津の宮仮設住宅	13箱
7/30	〃 岩沢仮設住宅	5箱
	〃 泊崎荘	16箱

	〃 名足仮設住宅	8箱
8/03	南三陸町泊崎荘避難所追加	26箱
8/05	岩手県大槌町吉里中学仮設	20箱
8/06	石巻市鮎川小学校仮設	45箱
8/07	東松島市グリーンタウン仮設	100箱
8/08	気仙沼市(旧)小泉中学仮設	18箱
8/08	気仙沼市山田大名広場仮設	25箱
8/10	気仙沼市市民会館避難所	25箱
8/11	南三陸町名足仮設	26箱
	〃 岩沢仮設	15箱
8/20	石巻市渡波祝田仮設	11箱
	〃 小竹仮設住宅	7箱
	〃 折浜仮設住宅	12箱
	〃 侍浜西山仮設住宅	11箱
8/24	南三陸町中山仮設住宅	10箱
8/25	〃 竹川原仮設住宅	8箱
8/26	登米市津山若者総合体育館(南三陸仮設)	10箱
	登米市津山横山幼稚園跡地(南三陸仮設)	8箱
	南三陸町童子下仮設住宅1	10箱
8/27	登米市津山横山仮設住宅「無料食器市」	35箱
	南三陸町童子下仮設住宅2	7箱
	南三陸沼田仮設住宅「無料食器市」	50箱
8/28	南三陸町田茂川仮設住宅	9箱
	南三陸町袖浜仮設住宅	9箱
	登米市津山若者総合体育館(南三陸仮設)	7箱
8/30	南三陸町寄木仮設住宅	12箱
	〃 館浜仮設住宅	8箱
8/31	南三陸町柘沢仮設住宅	28箱
	〃 田尻畑仮設住宅	6箱
	〃 保呂毛仮設住宅	3箱
9/01	南三陸町切曾木仮設住宅	16箱
	〃 桜沢仮設住宅	8箱
9/02	〃 波伝谷仮設住宅	24箱
9/03	〃 中瀬町仮設住宅	25箱
9/04	〃 社会福祉協議会	22箱
9/05	〃 中瀬町仮設住宅2期	40箱
9/07	〃 吉野沢仮設住宅	41箱
9/10	登米市南方イオン跡地仮設住宅	150箱
9/11	南三陸町平成の森仮設住宅	120箱
	〃 中瀬町仮設住宅4期	6箱
9/12	〃 山の神平仮設住宅	17箱
	〃 岩沢仮設住宅	32箱
9/25	〃 入谷小学校仮設住宅	15箱
10/01	南三陸町袖浜仮設住宅	30箱
10/10	石巻市総合運動公園仮設住宅	400箱
10/12	気仙沼活性化集団“粋”	25箱
	石巻市南境第5仮設住宅	31箱
	南三陸町柘沢仮設談話室	2箱
10/13	南方イオン跡地仮設集会所	2箱
	南三陸町波伝谷仮設集会所	1箱

③ **元気復興ネットみやぎ**（平成23年5月12日～平成24年3月31日）

主催：元気復興ネットみやぎ 事務局：NPO法人Azuma-re

比較的被害が軽傷ですんだ栗原・登米の農林業者、農林加工業者が協力して、甚大な被害を受けた沿岸部の農林水産業者、農林水産加工業者の産業再生の一助となる支援活動を仙台市・関東圏を中心に行った。

復興市「みやぎ元気市～結いの力～」開催（仙台市勾当台公園）

●計15回開催（6/28.29.30, 9/20.21.22, 10/25.26.27, 11/8.9.10, 3/27.28.29）

06/28, 29, 30	総出店数	10ブース	（沿岸部	2ブース）
09/20, 21, 22	〃	12ブース	（	〃 3ブース）
10/25, 26, 27	〃	15ブース	（	〃 4ブース）
11/ 8, 9, 10	〃	13ブース	（	〃 7ブース）
03/27, 28, 29	〃	18ブース	（	〃 8ブース）

地酒祭り

2011'12/25 日本橋三越前福島ビルにて開催「地酒まつり」にて沿岸部を中心とした宮城県の特産品を集め無償で委託販売を行なった。

松戸南部市場

2011'3/10 千葉県松戸市松戸南部市場内にて1区画を無償提供していただき、宮城の特産品を無償で委託販売を行なった。

④ **amaproject**（平成23年10月1日～）

主催：amaproject 事務局：NPO法人Azuma-re

協力：横尾香央留、栗原南部商工会青年部

南三陸町平磯仮設住宅、横山仮設住宅、横山幼稚園跡地仮設住宅にいらっしゃる方々を対象とした手芸活動による孤立防止、コミュニケーション、経済的支援の一助。

●2地域にて、週に2回2時間づつ、計週4日間の手芸活動を開催中

●完成作品285本（2012'1月～2012'3月）

●東京都内、フランスパリ、数店舗で販売

[CIBONE オンラインストア] [BUYMA] [MERCIPARIS] [sacai]

[CIBONE Aoyama] [TODAY'S SPECIAL] [国立新美術館ミュージアムショップ]

[idea by SOSU] [NADiFF 東京都写真美術館ミュージアム]

●1本/¥1,000 総額¥285,000を作り手さん13名へ還元（2012'1月～2012'3月）

⑤ **視察交流**（11/30日午前 栗原市市民活動支援センター）

多賀城・七ヶ浜商工会さん、TSWAVE（多賀城・七ヶ浜まちづくり推進協議会）さん来訪。

「災害復興とまちづくり」をテーマに、当法人の活動視察と意見交換・交流。

## 2. 市民活動、NPOのサポート／中間支援事業

### ① 研修・交流事業

事業名	「放射能を正しく学ぶ」～成長期の子ども達への影響～
主催	宮城県
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目的	<p>3月11日の東日本震災による福島第一原発事故の放射能影響は、遠く離れた栗原市に影響を与えた。地形や気流による高線量地区（ホットスポット）となってしまった。国の基準が定まらず行政の対応がまだおこなわれていない状況の中、専門機関、マスコミなどの様ざまな情報が入り乱れ、栗原市住民は不安な日々を過ごしていた。</p> <p>そこで専門家を招き、栗原市の線量を踏まえた、放射能の影響を正しく学ぶ場をつくり、情報に振り回される事がない正しい知識をもってもらい安心して生活できる事を目的とした。</p>
実施概要	<p>元広島大学原爆放遺伝子・優生学教授、元広島大学原爆放射能医学研究所所長、広島大学名誉教授であり、NGO世界核放災者医療交流委員として、1986年チェルノブイリ原発事故以来、これまでに50回以上チェルノブイリを訪ね、検診・調査・研究を重ねている佐藤幸男氏を招き栗原市の線量についてお話を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日時：平成23年10月2日</li> <li>●場所：栗原市みちのく伝創館</li> <li>●時間：9：30～11：30</li> <li>●参加費：無料</li> <li>●参加者：120名</li> <li>●内容：「栗原市の線量について」栗原市が計測し発表している測定値をもとに、専門家としての見解を述べる。「安全基準値の推移」国際的な基準値を説明。「奇形発生の閾値」奇形発生が起こりうる線量と福島原発の関連性など。「低線量被爆の影響について」国際基準とチェルノブイリの事例説明。「閾値なしの放射線による影響仮説について」アメリカのMuller博士の事例と国際基準説明。【質疑応答】58枚の質問用紙より抜粋し回答。</li> </ul>
成果課題	<p>参加者の中には、妊婦・若いカップル・赤ちゃん連れの母親など若い世代も多くみられた。アンケート数も半数を超える65枚回収でき「専門的な事がきけて安心した」など、実際の栗原市の測定値をもとに専門家の意見をきく事で安心できた参加者も多かった。「放射能汚染への問題意識や正しい知識」を地域住民が持ち、住民自らが解決に向けた活動を推進する上での啓蒙になった。当法人として今回のセミナー開催は、講師とのネットワークも出来、そして当法人の目的でもある住民ニーズの把握と課題解決につながった。</p> <p>また、会場で答えきれなかった質問にたいしても、後日講師の佐藤幸男氏が全ての回答をくださった。セミナーの録画映像と質問にたいする回答集を、当法人のホームページに掲載している。</p> <p>課題として放射能汚染は非常に長い期間影響がでる災害であり、今後の汚染に対する市民の不安をいかにするかが課題である。</p>

事業名	「市民活動団体事例発表・交流会」～繋がることから広がる～
主催	栗原市
協力	NPO法人Azuma-re
目的	近年設立したNPO団体の活動を広く知ってもらい活動の活発化と地域住民の理解を促進する。また、従来より活動をおこなっているNPO団体と新設されたNPO団体との交流の場を創出し、相互共助のネットワークを促進する。
実施概要	<p>●日 時：平成24年2月12日</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター</p> <p>●時 間：午前10:00～午後12:30</p> <p>●参加費：無料</p> <p>●参加者：32名</p> <p>●内 容：</p> <p>【活動事例発表団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人ウェルビーイングネット 理事長 菅原 隆文 氏</li> <li>・NPO法人栗原市体育協会 会 長 菅原 信行 氏</li> <li>・NPO法人まきばフリースクール 職 員 櫻井 由紀 氏</li> <li>・NPO法人Azuma-re 理 事 千葉 和義 氏</li> </ul> <p>【基調講話】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講 師 せんだい・みやぎNPOセンター 事務局長 伊藤 浩子 氏</li> <li>・テーマ 市民活動団体のステップアップのポイント～つながることから広がる～</li> </ul> <p>内容：市民活動団体におけるNPOの基礎的な考え方（事務局の大切さ、会議の大切さ、情報公開の大切さ等）</p> <p>【交流会】</p> <p>伊藤浩子氏の主導で、カードを使った団体同士のネットワークづくりや課題の共有を図るための「市民活動ぐるぐる交流会」を開催</p>
成果課題	<p>参加者32名（男性18名、女性14名）</p> <p>参加された32名は顔見知りが多いようだったが、それぞれの団体の存在は知っていたが詳しい活動内容を初めて知った方々も多かった。</p> <p>交流会でのカードを使った手法では、人見知りして話しかけづらい所を、カバーできる手法で、初めて同士でも今後協力していけるような感じになり、ネットワークづくりが成功したと感じた。</p> <p>そして1回限りで終わることなく継続し行いう事が、ネットワークを広げ深める事となり、NPO、市民活動の活発化となり豊かな地域づくりにつながると思う。</p>

事業名	「廃校を活用したまちづくり」～地域にとっての公共施設のあり方～
主催	宮城県
企画実施	NPO法人Azuma-re
目的	<p>地域にとっての公共施設とは、コミュニティの拠点である。</p> <p>公共施設の運営手法によりコミュニティの活性度合いが変わってくるといっても過言ではない。</p> <p>人口減少による公共施設の統廃合を、いかにとらえ活用するかが問われて</p>



	いる今、他地域の優れた活動を知り・学び・自らのコミュニティに活用してもらおうを目的とした。
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日 時：平成24年5月12日</li> <li>●場 所：栗原市市民活動支援センター</li> <li>●時 間：14:00～16:00</li> <li>●参加費：無料</li> <li>●参加者：20名</li> <li>●内 容：講師：杉本カネ子氏（NPO法人いけぶくろ大明理事長） テーマ「廃校を活用したまちづくり」 ～地域にとっての公共施設のあり方～</li> </ul> <p>【講話】廃校までの経緯、廃校の借り受けに関する行政とのやり取り、住民ボランティアを含めた組織の構築方法と組織運営方法、現在の施設活用方法など等。</p> <p>【質疑応答】「地域にあった活用方法にはどのような手法があるか？」 「借り受けるまで苦労した事は？」「運営費の捻出先は？」など他にも様々な質問があった。</p> <p>【交流】お茶をのみながら講師、参加者共に気さくな交流時間を過ごす。</p>
成果課題	<p>【成果】現在、地方では少子化により学校や公共施設の統廃合が進んでいる。使用しなくなった公共施設を、利活用し地域の拠点とする事は、元気なコミュニティの創出とともに、それを担う新しい公共の創出となる事である。その為の啓蒙・きっかけづくりとして今回の研修会開催はタイムリーで有効であった。質疑応答時には沢山の質問があり時間がたりなかった程で、関心の度合いがわかった。</p> <p>交流時間には、20名という参加者という事もあり、講師・主催者・参加者がざくばらんな交流時間をすごく事ができ、それぞれ今後の活動にプラスになる時間が持てたと感じた。</p> <p>【課題】参加者が20名という事もあり、まだほんの一部の人間しか研修に参加できていない。現在の統廃合のスピードと規模数を考えると、今後少なからず数回にわけ、それぞれの地域特性にあった研修会を開催する事が必要と思われる。</p>

事業名	市民参加交流セミナー「Café Azuma-re」
主 催	NPO 法人 Azuma-re
実施概要	<p>2009年より毎月第2水曜日19時に開催している。毎回カフェマスターとよばれる企画担当者が、市内および近隣で活動されている方をゲストスピーカーとして招き、色々な活動を知ると共に、ワークショップ等による会議の手法研修、交流会によるネットワークづくりを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日 時：平成24年1月11日（水） 19:00～20:30</li> <li>●場 所：栗原市市民活動センター</li> <li>●参加費：300円</li> <li>●参加者：13名</li> <li>●内 容：講話「地域を元気にする話」～3. 11若柳で起きていたこと～ 講師 加藤勝利氏（社会福祉協議会若柳支部長）、ワークショップ、交流会</li> </ul>

	<p>●日 時：平成24年2月8日（水） 18：30～20：00</p> <p>●場 所：栗原市市民活動センター</p> <p>●参加費：300円</p> <p>●参加者：23名</p> <p>●内 容：講話「お茶わんプロジェクト完了報告会」報告者 千葉和義（NPO 法人 Azuma-re）、交流会</p>
	<p>●日 時：平成24年3月14日（水） 19：00～20：30</p> <p>●場 所：栗原市市民活動センター</p> <p>●参加費：300円</p> <p>●参加者：9名</p> <p>●内 容：講話「地域を元気にする話」～NPO くりはらリンクの活動～ 講師 佐藤 渉氏（NPO くりはらリンク代表）、ワークショップ、交流会</p>
成果課題	<p>【成果】継続して行っている事で、色々な活動を知り学び交流を持つ事が出来ている。また市内に新しく越してきた人などの、栗原を知る場にもなっている。団体同士も既に顔見知りであっても、交流する機会がなかったり事業内容を知らない事が多く、この活動をきっかけに事業協力などが生まれている。また「何か地域の為にしたい」という思いをもった人にとってのきっかけづくりや、情報収集の場になっている。</p> <p>【課題】毎月行っていることで、マンネリ化やだらけてしまう所がある。また、「ふりかえり」をおこなっていないので、やりっぱなしになってしまっているので、報告書から改善行動へと動く仕組み作りをしなければならない。</p>

## ② 情報集積発信事業

事業名	NPO・市民活動有益情報事業
主 催	NPO 法人 Azuma-re(2011'4/1~2011'12/31) 宮城県(2012'1/1~2012'3/31)
企画実施	NPO 法人 Azuma-re(2012'1/1~2012'3/31)
実施概要	<p>開催日時：平成23年4月～平成24年3月</p> <p>場 所：栗原市市民活動支援センター、インターネット上</p> <p>対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO と市民活動団体</p> <p>内 容：</p> <p>① NPO・市民活動を行うにあたって有益な情報を、紙媒体（新聞記事のスクラップや、チラシ・冊子など）にて作成し、市民活動支援センター内へ展示・設置する。</p> <p>組織運営に関する基本的な有益情報は、定番として固定し、その他タイムリーな情報については、月に一度のスタッフミーティングでテーマを決めチラシを作成している。</p> <p>② 栗原市内の NPO・市民活動団体をデータベース化し、インターネット上と市民活動支援センター内展示にて紹介する。</p> <p>100団体を目標とし、市内の団体・活動をファイリングしている。</p>
成果課題	<p>【成果】①有益チラシの場合、分かりやすい成果としては、チラシが無くなる事が一つである。テーマによってチラシの増減は大小あるが、「NPO</p>

	<p>って何？」といった基本的な情報は、常に補充している現状である。</p> <p>新聞媒体のファイリングは、情報をみる人ももちろんであるが、情報をピックアップする我々側も、NPO・市民活動を行う人々興味のある人々に情報提供を行うソースとして大いに役立っている。</p> <p>③ NPO・市民活動団体のデータベース化については、今まで知らなかった活動や団体を知り交流を持てた。データベース化により沢山の市民に市内のNPO活動・団体をひろく周知できた。</p> <p>【課題】市民活動支援センターに、こういったサービスがあり情報を得る事ができる。という事を知らない人々がまだまだ多いと思われる事から、広く市民活動支援センターの存在とサービス内容を広報する事が必要である。また、この事業が終わった後に継続していける様、持続可能な事業計画が必要である。</p> <p>データベース化事業においては、自分達の活動や団体を広く知ってもらうための情報発信が、まだまだ根付いておらず、情報提供の協力を何度も依頼しても、答えが無い団体が多かった。</p>
--	--

### ③ NPO・市民活動個別相談事業

事業名	「NPO 大学」NPO・市民活動会計税務個別相談会
主催	宮城県
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
実施概要	<p>開催日時：平成24年3月24日（土）午後1時30分～午後4時30分</p> <p>会場：栗原市市民活動支援センター</p> <p>対象者：栗原市を含む宮城県北のNPO 法人と市民活動団体</p> <p>相談料：無料</p> <p>参加者：3団体（1団体1時間）</p> <p>相談対応者：成田由加里氏（公認会計士、東北大学会計大学院教授）</p> <p>相談内容内訳</p> <p>① 組織形態：NPO 法人</p> <p>相談者：法人理事</p> <p>時間：13:30～14:20</p> <p>相談内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定資産の評価基準・評価方法、過年度分の未実施分の処理方法など</li> <li>・寄贈本の評価方法と処理について。</li> <li>・改正会計基準の重要ポイントについて。</li> </ul> <p>② 組織形態：NPO 法人</p> <p>相談者：法人会計係</p> <p>時間：14:30～15:20</p> <p>相談内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄贈車などの会計処理の方法について</li> <li>・労働保険・法人税など決算後に発生する経費の処理方法について</li> </ul> <p>③ 組織形態：任意 NPO 団体</p> <p>相談者：団体会計係</p>

	<p>時間：15：30～16：30</p> <p>相談内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出納帳（科目分類、納税金科目等）の記載について</li> <li>・収支報告書（年度報告書）の作成について</li> </ul>
成果課題	<p>【成果】3団体ともに専門的な相談内容であった。この相談会が開催されなかったとすると、仙台に出向き NPO サポートセンター等の無料相談会を利用するか、有料で公認会計士・税理士などを利用する方法となるのではないかと思う。栗原市で開催されたという事は、今後もふくめ宮城県北の NPO・市民活動団体にとって気軽に相談できる環境ができることとなり、NPO 活動のさらなるステップアップにつながると確信できた。</p> <p>【課題】継続的に活動／支援する事で実績と効果が生まれる事業であり、今期単発で終わってしまう事なく、持続可能な体制づくりを考えながら活動を行う事が重要である。</p>

事業名	NPO・市民活動コンサルタント（相談）事業
主催	NPO 法人 Azuma-re(2011'4/1~2011'12/31) 宮城県(2012'1/1~2012'3/31)
企画実施	NPO 法人 Azuma-re(2012'1/1~2012'3/31)
実施概要	<p>NPO・市民活動の運営全般に関する課題への個別相談・助言。</p> <p>開催日時：平成23年4月～平成24年3月期間中の常時</p> <p>会場：栗原市市民活動支援センター</p> <p>対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>相談料：無料</p> <p>相談者：6名</p> <p>相談対応者：千葉 和義氏（NPO 法人 Azuma-re 理事）</p> <p>相談内容内訳</p> <p>① 相談者：NPO 任意団体事務局長      対応時間：40分      相談内容：      ・NPO 法人化にするにあたってのメリット・デメリット      ・認定 NPO にしたい      ・団体のホームページをつくった方がよいのか？</p> <p>② 相談者：自治会 会長      対応時間：40分      相談内容：      ・40代、50代の独身男性や多くコミュニティ衰退につながる。      ・金成地区コミュニティ推進協議会をつくりたい。</p> <p>③ 相談者：NPO 任意団体代表      対応時間：30分      相談内容：NPO 法人化のメリット・デメリットは？</p> <p>④ 相談者：NPO 任意団体事務局長      対応時間：40分      相談内容：新規メンバーを増やすにはどうすればよいか。</p> <p>⑤ 相談者：個人      対応時間：40分</p>

	<p>相談内容：デイサービスと泊まりを含めた施設を開業するにあたり どんな法人形態がよいか？</p> <p>⑥ 相談者：NPO 任意団体事務局係 対応時間：60分 相談内容：NPO 法人化のメリットデメリット、雇用に関する労働条件等について、一般社団法人について等。</p>
成果課題	<p>【成果】「NPO 法人化のメリットデメリット」という質問が多かった。NPO 法人化を考慮している団体が、少数ではあるが確実に増えていると感じた1年だった。</p> <p>【課題】相談を受ける側のスキルがまだまだ乏しく、専門的な質問には回答出来なかった。また、こういったサービスがあるという事もあまり知られていない。情報発信が必要である。</p>

事業名	栗原市市民活動支援センター施設管理業務
主管	栗原市市民協働課
実施概要	<p>●期 間：平成23年4月1日～平成24年3月31日</p> <p>●業務内容：市民活動支援センターの窓口業務、施設管理業務・施設及び設備の貸し出しや受付業務全般等</p>
成果課題	<p>【成果】立地条件、駐車場の利便性、1階が総合支所、キッズルームやミーティングスペース、会議室、印刷機、貸事務室などの利便性に伴って、施設利用者は年々増加している。それに伴い「市民活動」「NPO」に対する認知も広まってきていおり「市民活動の拠点」になりつつある。</p> <p>【課題】現在はスペースの貸し出し「貸館業務」となっており、NPOや市民活動・まちづくり活動を啓蒙・推進する「ソフト事業」の企画実施は少ない。施設の利用者が増えてきて拠点となりつつある今、ソフト事業を実施し、NPO、市民活動、まちづくり活動を活発化し「市民によるコミュニティ自治」を推進するチャンスでもある。</p>

### 3. 委員会等の委員

行政等の審議会や委員会、評議会などの委員として、市民活動・NPOの立場から提言を行っている。

- ①宮城県：新しい公共支援事業運営委員  
地域づくり団体協議会栗原支部副支部長
- ②NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター：新しい公共「NPOセクターの社会的信用をより高めるための情報発信基盤整備事業」研究員
- ③栗原市社会福祉協議会：ボランティア運営委員
- ④栗原市南部商工会：「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」ワーキング委員
- ⑤日本NPOセンター：「市民活動団体(NPO)育成・強化プロジェクト」宮城メンバー